

水道事業の広域化に関する市民説明会 概要 【川西公民館】

1 開催概要

開催日時	令和6年12月11日（水） 19:00~21:20
開催場所	川西公民館 大ホール
参加者	28名（他に長野県企業局から3名同席）
報道関係	—

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	耐震化	耐震化の強度は、どのくらいの震度を想定しているのか。	具体的な震度のレベルはこの場では承知していないが、当地域が将来にわたって最強と考えられる地震動を想定している。 （地盤等が違い、各地域、それぞれの場所で異なるが、染屋浄水場のエリアは震度6弱程度を想定）
2	整備計画	上田から長野まで、非常時のための水道管を整備するのはあまりに距離が長い気がする。坂城から千曲、長野だったら、水源が同じだから合理性があるけど、なぜ上田なのか。	坂城町以北の県営水道の区域への給水は、上田市にある諏訪形浄水場から供給しているため、もし管が破断した場合は影響が大きいため、送水管の複線化を図るものである。
3	広域化のメリット	仁古田地区などが染屋浄水場の給水エリアになることをメリットとして説明しているが、現在もバルブを開ければ、染屋浄水場の水が、仁古田や塩田にも行くと聞いたことがあり、メリットとして挙げる必要があるのか。	市内の県営水道区域と市営水道の間には、緊急連絡管という水を双方に融通できる管路が整備されている。 ただし、区域をまたいで給水することは法律上できないため、通常時はバルブを閉めており、何か事故や問題が起きた際に双方に水を送れる緊急時のための連絡管である。非常時に使用する前提であるため、管の口径は既存の管の太さで十分な太さではなく、水量的に仁古田、小泉地区や塩田地域の全てを賄えるものではない。バルブの開閉によりすぐ水が送れるのは一部の区域に限られる。

4	整備計画	耐震化の工事は、メインの水道管だけでなく、各地域の管路まで対象として考えているのか。	メインの管路を重点的に取り組むことになるが、各地域の末端の管路も含めて耐震化を図る必要があると考えている。優先順位をつけながら順次対応していきたい。
5	市民意見の反映	広域化した場合、上田市民の意見はどう反映されるのか。	企業団の意思決定機関として、それぞれの構成団体から議員を選出し、企業団議会を設置することになる。また、企業団の管理運営に関し、規約の変更や予算決算の重要事項等を協議するため、構成団体の代表者（市長等）で構成する、運営協議会の設置を考えおり、このような協議の場を持つことで意見を反映できる体制を考えている。
6	説明会のあり方	<p>・意見集約して、令和7年3月を目途に行政として方向性を決めるという説明であったが、市長が最終的に決断するということか。</p> <p>・広域化ありきで話が進んでいるとしか思えない。ここで反対意見を言っても、職員が市長に伝えるだけで、最終決定権を持つ市長が、なぜ市民から直接話を聞かないのか分からない。市長に直接言わなければ、市長も市民がどう思っているかわからないのではないか。</p>	<p>・市長は、行政としての方向性を判断し、基本計画について合意するだけであり、最終的な決定は、企業団規約等（企業団の設立）について議会で議決をいただく必要がある。</p> <p>・説明会の内容が、広域化に偏ってしまったことは反省しているが、人口減少の中で、耐震化や機能強化が図られ、財政シミュレーションでもメリットが上田市にもあることが確認できたことから、有効な手段と捉えている。市長が説明会に出向き、市民の声を直接聞くことは必要と考えるが、現段階では、上田市として方向性がまだ決まっておらず、そこまでの段階ではないと判断し説明会を開催した。</p>

7	財政シミュレーション	<p>何十年後かのシミュレーションが正確かどうかは、市民には全く分からない。間違っていたら誰が責任を取るのか。シミュレーションは、曲がった見方をすると安くなる方向にいろんなデータを調整して出したとしか思えず、実は料金がもっと上がるのではないか。</p>	<p>財政シミュレーションは、これまでの経営実績と今後の更新計画に基づき、更新時期等を勘案しながら積み上げているため、根拠をもってお示しできる数字である。</p> <p>ただし、財政シミュレーションとは傾向を把握するものであり、将来の物価や人口減少も変動があるため、必ずこうなるというものではない。広域化することによって、このぐらいは抑制ができそうだとということでご理解いただきたい。</p>
8	水利権	<p>広域化した場合、上田市の水の権利というのはどうなるのか。</p>	<p>千曲川や神川、内村川などの河川水は、水道事業者として上田市が国土交通省千曲川河川事務所から取水の許可を得ている。広域化した場合は、取水の使用者である企業団が許可を得ることになる。</p> <p>また、各地域にある湧水の水源も将来的には企業団が管理する形になるが、過去の経過として、地域の皆様にご理解をいただき取水できる量を決めたものや、何か問題がある時には協議を約束したものなどがあり、上田市として何らかの関わりを残せることも検討していきたい。</p>
9	その他	<p>能登半島地震では水道の復旧が非常に遅れたが、広域化に原因があると思われるため、この点を学び、考えない限り、非常に大変なことにならないのではないか。</p>	<p>能登半島については水道事業の広域化の事実はない。</p> <p>特に復旧が遅れているのは珠洲市で、能登半島の先端に位置し、山間地が多く、平地が少ない地形で、道路が寸断されたことが大きな要因と言われている。また、被害が大きくなった理由としては、浄水場や管路の老朽化や耐震化の遅れが言われている。</p>

10	基本計画	<p>運営協議会の位置づけがよく分からない。一部事務組合だと意思決定がスピーディーではなく、広域連合の場合は議会や諮問機関を置くから意思を反映できると思うが、どのように考えているか。</p>	<p>企業団議会とは別に、重要な意思決定をする場として、各構成団体の代表者による運営協議会の設置を考えている。構成団体の代表者により地域の声を反映できる体制を考えている。</p>
11	人材育成	<p>能登半島地震では、本管が復旧しても、宅内配管は個人で直さないといけないため、全体の復旧が遅れた。例えば、2、3軒の宅内配管を先に復旧して、そこから水を取るとか、補助金を出すなどの案を検討できないのか。人材不足と言うが、そのようなことを考える人材も育成していくことを考えているのか。</p>	<p>組織としては、運営や日常の維持管理をする専門人材も当然必要ではあるが、事業体が対応策を考えられ人材の育成を図ることも必要である。それ以外にも経営や計画立案できる人材の確保、育成も重要と考えている。</p>
12	経営方針	<p>水は地方自治で保障されていて、人間が生きていくには水がなければ生きていけないわけで、住民が大切にしなければならないのは、水源だと思う。この水が上田市には十分あると聞いているが、上田市として単独でやっていっていいのではないか。</p>	<p>先人のおかげで、上田市の水源水量は、上田市民が使う分には十分な量が確保されている。</p> <p>人口減少社会を見据える中で、組織体制や施設の老朽化、耐震化の遅れへの対策を将来世代に先送りすることなく、どのように取り組んでいくべきか。将来の水道料金が上がるのは避けられない状況であるが、国等の財政支援を有効に活用することで、単独経営より少しでも抑制できないかを考え、検討してきたことを今回お示しさせていただいた。</p>
13	水道事業の課題への対策	<p>老朽化や人口減少は前からわかっていることで、耐震化や老朽化の対策、あるいは職員の現状についても分かっているはずなので、当然、自治体として対策をする必要があったが、どうなっているか。住民が大切にする水に対してどのくらい対策をとったのかが分からない。</p>	<p>主に高度経済成長期に整備した施設や管路など、耐用年数を超えても大切に使い続けてきたが、更新時期を迎え、その費用は大変大きなものであり、しっかりとした対策が必要であるが、サービスを考える中で、料金の抑制に重点を置き経営をしてきた。そのため、職員数の減少、老朽化や耐震化の対策が遅れてし</p>

			<p>まったことは数字が示すとおりであり、今後、安全・安心で持続可能な水道事業とするためにはどうすべきか、見直していく必要があると考えている。</p>
14	民営化	<p>上田市もすでに一部外部委託しているとのことだが、人間にとって一番大切な水や水源を民間に委ね外資に取られてしまうことがあれば大変なことになる。フランスのパリでは民営化したがあまくいかず、再度公営に戻すのに大変苦労したと聞いている。大きな会社が、世界中の水道水を牛耳っているのが現状で、上田市にも、既にその一部が入り込んだと聞いている。市民全体の問題として、もう少し深くみんなで議論するような状況が必要なのではないか。</p>	<p>上田市でも水質検査や料金徴収など一部の業務を個別委託する中で、過去にはご指摘の会社がメーター検針や料金徴収等の業務を受託していたことがあるが、契約期間が終了し、現在は別の会社が業務を受託している。</p> <p>我々が一番心配しているのは、個別委託とは別に、民間が水道事業の運営に携われるコンセッション方式などであり、この方式では、委託期間が10年から20年と長期に渡るため、その間に職員の技術力の喪失が危惧される。</p> <p>行政として技術力を持ち続けることは大事であり、単独ではなかなか難しい取り組みもある中で、行政を主体とする組織を大きくすることを提案している。</p> <p>広域化の検討においては、運営まで全てを任せる民営化やコンセッション方式は一切考えていないが、個別の委託として民間の力を借りることは、今後とも当然必要と考えている。</p>
15	長野県・企業局関係	<p>・令和5年の国の通達では、県に対して国は、市町村間の協議にあたり調整機能を果たし、広域化を進めなさいと言っている。水道広域化の旗振り役は長野県であり、調整機能をしっかりやりなさいと言っているわりに、市町村に全てを丸投げしているように感じるがなぜか。</p>	<p>・県では、水道行政を担う環境部が長野県水道ビジョンを改定して、全県を9圏域に区分し、広域化や広域連携により水道を将来にわたり維持していこうというプランを立てたところである。昨年度から、県環境部では、各圏域の水道事業者や市町村を集めて、検討の場を組織して</p>

		<p>・塩田は全域県営水道で、川西地域の約半分の人口を占める小泉、仁古田地区が県営水道区域である。そのような中で、水道利用者に対する広域化の説明責任は、上田市ではなく、県企業局にあると思う。県の考え、広域化に対するスタンスを伺いたい。</p>	<p>情報交換をしており、現在の課題に対し、それぞれの圏域でできる対応について話し合いがされている。その中で、当圏域の場合は上田長野間の事業統合を中心とした広域連携を目指しており、事業統合が難しい圏域は、例えば薬品の共同購入や料金徴収などの連携を模索するような、できるところから始めようということで、環境部の方で調整をしているように聞いている。</p> <p>・企業局の考えとしては、当該地域を見た時には、今回提示しているプランが、将来を考える上で一つの良い形であるという考えを持っている。一番は人口減少になるが、組織として人を確保するには、やはり組織を大きくする必要がある。そういう意味でも、できるだけ大きな組織で職員を集めて、しかも管理する施設を小さく、少なくしていく必要がある、方向性としては、広域化の方が少なくとも今よりはいいだろうと考えている。単独で経営していくのは今後、非常に厳しくなる。</p> <p>・長野市、千曲市、坂城町にも県営水道区域があり、基本的に説明会等は各自治体が開催して、県営水道区域がある地域は、県も同席して、県営水道に係る説明や回答をさせていただいている。企業局としての説明会開催はご意見として頂戴し、今後考えさせていただく。</p> <p>(回答：長野県企業局)</p>
--	--	---	---

16	広域化への要望	<p>広域化はいずれ避けては通れない道と考えるが、企業団設立までに、構成団体で次の四点について事前に合意できるよう努力をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の一番の要望は上田の安心安全で、しかも美味しい水である。塩田・川西地域への染屋浄水場からの給水時期を、国の補助期間の令和16年度までにできるようにしてもらいたい。 ・広域化に慎重な意見の方がいる中で、理由の一つとして考えられる、広域化の事業から外れている鹿教湯浄水場や腰越浄水場についても機能強化できるように計画に入れてもらいたい。 ・それぞれ4水道事業者の内部留保資金（貯金）と起債（借金）の額を明確にさせていただき、もし上田市に内部留保がそれなりにあるのなら、この計画の前に前倒しで事業執行してもらいたい。 ・市町村からお願いされたといっても、この地域に県営水道を入れた以上、長野県にも相当責任がある。そういう意味でも、国の支援だけではなく、長野県の支援についてもルール化を図っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塩田地域、仁古田・小泉地区に染屋浄水場の水を送るためには、まず染屋浄水場から諏訪形浄水場までの連絡管の整備と、諏訪形浄水場の水と混ぜずに送水できるように諏訪形浄水場内の構造を直す必要がある。また、安心・安全な水の供給には、老朽化が進む染屋浄水場のろ過池等の更新や耐震化等の施設整備も必要であるため、すべての整備が完了するまでは20年程度を見込んでいるが、少しでも早く給水できるように取り組んでいきたい。 ・丸子地域の施設も広域化に合わせて取り組むべきだという意見ですが、広域化事業の運営基盤強化に資する施設管路ということで、これは市内全域の施設・管路を対象としている。例えば丸子地域では鹿教湯浄水場の耐震補強や腰越浄水場の一部更新費用も含んでおり、上田市としては、市内全域を見据え耐震化・更新事業に取り組んでいくことを考えている。 ・内部留保資金と起債残高の関係や、長野県の支援については、今後協議が必要と考えているため、ご意見として賜りたい。
17	水質検査	<p>NHKの報道では、長野市はPFOS（有機フッ素化合物）が検出されていた。上田市の情報をホームページで調べてみると、PFOSに関するデータが何にもないが、上田市の状況はどうなっているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上田市では、令和3年度から年1回、PFOS・PFOA（有機フッ素化合物）の測定を行い、市のホームページで結果を公表している。以前は水質検査結果の中で一覧にして公表していたが、現在は有機フッ素化合物については個別で掲載しているので確認いただきたい。 ・2020年度に真田地域と武石地域

			<p>の湧き水 2 箇所から検出されたため、現地確認後、再調査を行った経過がある。再調査では、定量下限値未満で検出されず、不法投棄や不法侵入、水源上流部で乱開発がないかなども調査した結果、特段有機フッ素化合物が入る可能性がないため、確定ではないが、検査時の混入が疑われたものである。上田市の水道については、今のところ汚染の事実はなく、有機フッ素化合物については安心していただきたい。</p>
18	その他	<p>小泉地区への給水は、塩田地域を回ってくるため水圧が低い。広域化した場合、令和 16 年頃の変更を待たなくても、もっと早く変更することができるのではないかと。</p>	<p>現在は、市営水道と県営水道がそれぞれ水道事業をしており、水の融通ができないという中で、区域が明確に分かれている。広域化した場合は一つの事業体になり区域がなくなるため、水の運用も含めて改めて考えることができ、現在の県水側からの小泉地区への給水を、市営水道側の福田方面から直接送ることで早期の解決が図れるかの検討も可能となる。</p>
19	危機管理	<p>広域化した場合、上田市内は染屋浄水場がメインとなるが、もし、染屋浄水場で問題が起きた時のために、千曲川の上流域にも水源（取水口）を確保する計画はないのか。</p>	<p>千曲川からの取水は、国土交通省の許可が必要となる。東御市や小諸市内に良質な湧き水水源があるという状況ではなく、広域化した場合の染屋浄水場の給水区域のバックアップとしては、真田地域や丸子地域の方から水を回すことを考えていく必要がある。</p> <p>また、諏訪形浄水場からのポンプアップによるバックアップについても検討することが可能となる。</p>

20	説明会全般	<p>上田市の水道は満足度も高く、上田市の水道ビジョンでしっかり計画を立て運営してきているが、広域化の話が突然出てきて、時間を決めてそこまでにやらないと不利になるからということで、慌てて説明しているように感じてしまう。水道の広域化は、合併と同じくらい大きなことなので、しっかり市民に説明をして、理解いただいた中で進めていただきたい。</p>	<p>上田市の水道ビジョンは、平成31年に令和10年までを計画期間として作成したもので、人口減少社会を見据える中で、上田市単独に重点を置いてはいるが、広域化も検討すべきものとして記載しており、今の取り組みにつながっている。</p> <p>広域化の補助制度は、令和16年度までの期限付きであることから、少しでも多く補助金を活用して、料金の抑制が図れないものか検討を重ねており、市民の皆様に水道事業について一緒に考えていただくために説明会を開催している。</p> <p>今後、広域化の方向性が出た場合も、企業団の設立までには最低でも1～2年の期間が必要になることから、市民の皆様に情報提供する機会も必要と考えている。</p>
----	-------	--	--